

企画総務委員会 送付27-9

JR 御茶ノ水駅整備改築時の駅ホームの安全性確保のための実証実験を求める陳情

受付年月日 平成27年10月9日

陳情書

〈趣旨〉

JR御茶ノ水駅バリアフリー等整備事業は、当駅を利用する多数の病院および病院利用者から、駅のバリアフリー化を求める陳情が相次ぎ、外濠内の難工事であることを乗り越えて、その目的を達成すべきであるとの判断の下に、改築工事を進めることが決定されたという経緯があります。バリアフリー(生活弱者のための生活に障害となる物理的な障壁の削除を行う)およびユニバーサルデザイン(だれにでも使いやすいモノをデザインする設計手法)を推進することが、この工事の本来の目的です。しかし、現行の計画は、むしろ危険性を増すとの声が、病院関係者や駅利用者から多数上がっております。

現行よりホームの有効面積が狭くなり、柱の太さが3倍から4倍以上になる(乗客の移動の障害となる)など、現状比で明らかに悪化すると言うことは、JRが認めているところです。その上で、JRは机上の計算により、エレベーター、エスカレーター、階段を利用することによりホームの滞留時間が短いことをもって、安全が確保されていると説明しています。しかし、これはあくまでも机上の計算であり、この説明では安全が確保されているとは到底考えられません。駅改築により、柱は1メートル角となるため、階段、エスカレーターとの間に乗降者が滞留する危険なホームの狭隘部を数箇所もつくる原因となっています。なお、今後のホーム柵設置のためにも、ホームの面積はできるだけ広くとらなければなりません。JRの説明では現行より狭くなるという正反対の改築計画になっています。

内閣府による『バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱』の指針には「今後の施策の展開に当たっては、障害者や高齢者の特性によるニーズに対応しつつ、すべての生活者・利用者の視点に立って、バリアフリー・ユニバーサルデザインを推進する。その際、障害者や高齢者を始め利用者や住民の積極的な参加を得て、その意見を反映しつつ、推進することが重要である」とあります。JRは、ホームの安全性確保のために、高齢者、障害者を含めた実証実験を行ったうえで、ホームの改築計画をするべきです。

私たちは、改築工事そのものに反対していません。真にバリアフリーになる改築を求めているのです。御茶ノ水には、長年、病院と大学の連携のもと、ユニバーサルデザイン研究会が活動しています。千代田区議会として、ホームは安全であるとするJRに対し、地元研究会等とも協働し、安全性を確認する実証実験を行い、それに基づいたホーム建設計画を行うよう、働きかけていただきたくお願い申し上げます。

平成27年10月9日

千代田区議会議長 戸張 孝次郎 殿